



(財) 財務会計基準機構会員

平成 20 年 3 月期 第 3 四半期財務・業績の概況

平成 20 年 1 月 31 日

上場会社名 株式会社ファンケル

上場取引所 東証一部

コード番号 4921

URL <http://www.fancl.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長執行役員

(氏名) 宮島 和美

問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員財務・総務・人事ユニット長

(氏名) 龍地 敏典

TEL (045) 226-1200

(百万円未満切捨て)

1. 平成 20 年 3 月期第 3 四半期の連結業績 (平成 19 年 4 月 1 日 ~ 平成 19 年 12 月 31 日)

(1) 連結経営成績

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
20年3月期第3四半期	75,556	1.8	6,033	4.9	6,151	4.9	3,041	△15.6
19年3月期第3四半期	74,223	3.0	5,749	△24.2	5,862	△26.9	3,602	△20.1
19年3月期	101,065	—	8,370	—	8,388	—	2,547	—

	1株当たり四半期(当期)純利益		潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益	
	円	銭	円	銭
20年3月期第3四半期	47	61	47	34
19年3月期第3四半期	55	86	55	17
19年3月期	39	59	39	13

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
20年3月期第3四半期	85,320	70,425	82.2	1,133.33
19年3月期第3四半期	84,416	72,209	85.4	1,132.45
19年3月期	86,931	71,560	82.2	1,116.59

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動によるキャッシュ・フロー	投資活動によるキャッシュ・フロー	財務活動によるキャッシュ・フロー	現金及び現金同等物期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
20年3月期第3四半期	3,740	△1,607	△4,224	21,314
19年3月期第3四半期	1,494	△2,566	△2,754	17,341
19年3月期	6,472	△1,733	△2,495	23,411

2. 配当の状況

	1株当たり配当金
(基準日)	第3四半期末
19年3月期第3四半期	円 銭 —
20年3月期第3四半期	—

3. 平成20年3月期の連結業績予想(平成19年4月1日～平成20年3月31日) 【参考】

1株当たり当期純利益を除き、平成19年11月1日に発表した平成20年3月期の連結業績予想を変更していません。

(%表示は対前期増減率)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円 %	百万円 %	百万円 %	百万円 %	円 銭
通 期	100,500 △0.6	8,650 3.3	8,800 4.9	4,000 57.0	62 61

4. その他

- (1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 有
- (3) 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 有

[(注) 詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】 4. その他をご覧ください。]

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は経済情勢等様々な不確定要因により、これらの予想数値と異なる場合があります。

【定性的情報・財務諸表等】

1. 連結経営成績に関する定性的情報

平成19年3月期第3四半期まで、親会社はポイントサービス利用に伴う売上値引に対応する費用を、ポイント使用時に売上高の控除として記載しておりましたが、平成19年3月期期末決算より、発生時に販売費及び一般管理費として計上することといたしました。平成20年3月期第3四半期と同じ会計基準を採用した場合の平成19年3月期第3四半期の売上高および利益と平成20年3月期第3四半期の売上高及び利益を比較して算出した前年同期比に※印を付けて表示しております。

当第3四半期のわが国の経済は、企業業績全般は引続き底堅く推移しましたが、原油高、原料高の影響で、食品を中心に消費財の値上げ表明が相次ぎ、消費の先行きには不透明感が増しています。

化粧品業界は、アンチエイジングを訴求する基礎化粧品が好調に推移していますが、全体的には横ばいの状況が続いています。

健康食品業界は、市場の調整が続く一方で、表示のあり方や安全性に関する行政の監視が厳しくなっており、企業間格差が生じてまいりました。

当第3四半期の売上高は、化粧品関連事業は好調に推移しましたが、栄養補助食品関連事業やその他事業が不振で75,556百万円(前年同期比1.8%増(※2.3%減))となりました。

利益率の高い化粧品関連事業が好調だったことおよび販売促進費の効率化を図ったことなどにより、営業利益は6,033百万円(前年同期比4.9%増(※2.9%増))、営業利益率は0.3ポイント上昇(※0.4ポイント上昇)し8.0%となり、経常利益は6,151百万円(前年同期比4.9%増(※2.9%増))、経常利益率は0.2ポイント上昇(※0.4ポイント上昇)し8.1%となりました。

四半期純利益は3,041百万円(前年同期比15.6%減)、四半期純利益率は前年同期より0.9ポイント低下し4.0%となりました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期末における総資産は、85,320百万円となり、前連結会計年度末より1,610百万円の減少となりました。主な要因は、流動資産では、現金及び預金の増加1,504百万円、受取手形及び売掛金の増加1,313百万円、有価証券の減少5,793百万円などがあり、固定資産では、投資有価証券の増加2,250百万円などがありました。流動負債では、未払法人税等の減少961百万円などがありました。

純資産は70,425百万円となり、前連結会計年度末より1,135百万円の減少となりました。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

業績予想につきましては概ね予想通り推移しており、自己株式の取得によって変動する1株当たり当期純利益を除き、現時点では中間決算発表(平成19年11月1日)の業績予想に変更はありません。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）
該当事項はありません。

(2) 会計処理の方法における簡便な方法の採用

- ・ 固定資産の減価償却の方法
 - (1) 有形固定資産……年度見込額のうち当四半期分を計上しております。
 - (2) 無形固定資産……年度見込額のうち当四半期分を計上しております。
- ・ 法人税等の計上基準……法定実効税率をベースとした年間予測税率により計算しております。
- ・ その他影響額が僅少なものにつき、一部簡便的な手続きを用いております。

(3) 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更

- ・ 有形固定資産の減価償却費の会計処理
法人税法の改正（「所得税法等の一部を改正する法律」（平成19年3月30日法律第6号）及び「法人税法施行令の一部を改正する政令」（平成19年3月30日政令第83号））に伴い、平成19年4月1日以降に取得したものについては改正後の法人税法に基づく方法に変更しております。
なお、この変更に伴う営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益への影響は軽微であります。

5. (要約) 四半期連結財務諸表

(1) (要約) 四半期連結貸借対照表

(単位: 百万円、%)

科 目	前年同四半期末	当四半期末	増 減		(参考) 前期末
	(平成19年3月期 第3四半期末)	(平成20年3月期 第3四半期末)	金 額	増減率	(平成19年3月期末)
	金 額	金 額	金 額		金 額
(資産の部)					
I 流動資産					
現金及び預金	15,501	15,807	306	2.0	14,303
受取手形及び売掛金	10,816	11,296	480	4.4	9,983
有価証券	8,003	10,500	2,497	31.2	16,294
たな卸資産	7,041	6,822	△ 219	△ 3.1	6,746
その他	1,899	2,213	313	16.5	2,242
流動資産合計	43,262	46,641	3,378	7.8	49,570
II 固定資産					
1. 有形固定資産					
建物及び構築物	12,158	10,971	△ 1,187	△ 9.8	11,582
土地	10,636	10,627	△ 9	△ 0.1	10,627
その他	2,841	2,619	△ 221	△ 7.8	2,753
有形固定資産合計	25,637	24,218	△ 1,419	△ 5.5	24,963
2. 無形固定資産					
	2,558	2,907	349	13.6	2,761
3. 投資その他の資産					
投資有価証券	2,039	3,080	1,040	51.0	830
長期貸付金	685	654	△ 31	△ 4.5	655
保証金	2,713	2,637	△ 75	△ 2.8	2,684
その他	7,518	5,180	△ 2,338	△ 31.1	5,464
投資その他の資産合計	12,957	11,553	△ 1,404	△ 10.8	9,635
固定資産合計	41,153	38,679	△ 2,474	△ 6.0	37,360
資産合計	84,416	85,320	904	1.1	86,931
(負債の部)					
I 流動負債					
支払手形及び買掛金	3,982	4,120	137	3.5	3,741
未払金	3,707	3,350	△ 356	△ 9.6	3,313
未払法人税等	741	1,065	324	43.7	2,027
ポイント引当金	—	1,558	1,558	—	1,849
その他	1,916	2,388	471	24.6	1,938
流動負債合計	10,348	12,482	2,134	20.6	12,869
II 固定負債					
退職給付引当金	1,366	1,531	164	12.1	1,388
役員退職慰労引当金	216	38	△ 178	△ 82.4	223
その他	275	842	567	206.3	889
固定負債合計	1,858	2,412	553	29.8	2,500
負債合計	12,207	14,895	2,688	22.0	15,370
(純資産の部)					
I 株主資本					
資本金	10,795	10,795	—	—	10,795
資本剰余金	11,857	11,867	10	0.1	11,852
利益剰余金	57,506	57,955	448	0.8	56,451
自己株式	△ 8,125	△ 10,506	△ 2,380	29.3	△ 7,699
株主資本合計	72,033	70,111	△ 1,921	△ 2.7	71,399
II 評価・換算差額等					
	52	37	△ 15	△ 28.8	50
III 新株予約権					
	123	276	152	123.8	111
純資産合計	72,209	70,425	△ 1,783	△ 2.5	71,560
負債・純資産合計	84,416	85,320	904	1.1	86,931

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てております。

(2) (要約) 四半期連結損益計算書

(単位:百万円、%)

科 目	前年同四半期 (平成19年3月期 第3四半期末)	当四半期 (平成20年3月期 第3四半期末)	増 減		(参考) 前期 (平成19年3月期)
	金 額	金 額	金 額	増減率	金 額
I 売上高	74,223	75,556	1,332	1.8	101,065
II 売上原価	25,993	24,615	△ 1,377	△ 5.3	33,895
売上総利益	48,230	50,940	2,710	5.6	67,170
III 販売費及び一般管理費	42,480	44,907	2,427	5.7	58,800
営業利益	5,749	6,033	283	4.9	8,370
IV 営業外収益	414	464	50	12.2	621
受取利息及び配当金	70	109	39	55.5	118
その他営業外収益	343	355	11	3.3	502
V 営業外費用	301	346	44	14.9	603
たな卸資産廃棄損	213	259	45	21.3	429
その他営業外費用	87	87	0	△ 0.6	174
経常利益	5,862	6,151	288	4.9	8,388
VI 特別利益	0	6	6	—	641
VII 特別損失	322	316	△ 6	△ 2.0	3,983
固定資産処分損	68	29	△ 39	△ 57.5	163
その他特別損失	254	287	33	13.0	3,820
税金等調整前四半期 (当期) 純利益	5,539	5,841	301	5.4	5,045
税金費用	1,937	2,799	862	44.5	2,498
四半期(当期) 純利益	3,602	3,041	△ 560	△ 15.6	2,547

(注1) 記載金額は百万円未満を切り捨てております。

(注2) 前連結会計年度末において、ポイントサービス利用に伴う売上値引に対応する費用にかかる会計処理方法を、ポイント使用時に売上高から控除する方式から、発生時に販売費及び一般管理費として費用計上する方式に変更しております。
この方式を前年同四半期会計期間に適用した場合の修正値および影響額は、売上高77,357百万円(従来の会計処理方法との差3,133百万円増加)、販売費及び一般管理費45,499百万円(同3,018百万円増加)、経常利益5,977百万円(同115百万円増加)となります。

(3) (要約) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

項 目	前年同四半期 (平成19年3月期 第3四半期)	当四半期 (平成20年3月期 第3四半期)	(参考) 前期 平成19年3月期
	金 額	金 額	金 額
I 営業活動によるキャッシュ・フロー			
税金等調整前四半期(当期)純利益	5,539	5,841	5,045
減価償却費	1,962	2,229	2,669
減損損失	—	—	981
賞与引当金の増減額(減少:△)	△ 379	△ 435	46
退職給付引当金の増減額(減少:△)	85	143	107
受取利息及び配当金	△ 70	△ 109	△ 118
有形固定資産処分損	59	26	150
売上債権の増減額(増加:△)	△ 1,839	△ 1,313	△ 1,006
たな卸資産の増減額(増加:△)	△ 361	△ 75	△ 66
その他の流動資産の増減額(増加:△)	△ 547	△ 24	△ 47
仕入債務の増減額(減少:△)	△ 24	378	△ 265
その他の流動負債の増減額(減少:△)	153	734	△ 118
その他	△ 91	△ 446	1,513
小 計	4,485	6,948	8,891
利息及び配当金の受取額	67	119	105
法人税等の支払額	△ 3,195	△ 3,569	△ 3,381
その他	135	241	856
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,494	3,740	6,472
II 投資活動によるキャッシュ・フロー			
有価証券の取得による支出	△ 10,997	△ 12,479	△ 12,988
有価証券の償還による収入	11,698	14,485	12,695
有形固定資産の取得による支出	△ 1,829	△ 859	△ 2,145
無形固定資産の取得による支出	△ 1,200	△ 721	△ 1,829
その他の投資の取得による支出	△ 211	△ 51	△ 305
その他	△ 25	△ 1,980	2,835
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,566	△ 1,607	△ 1,733
III 財務活動によるキャッシュ・フロー			
自己株式の取得・売却による純収入(純支出:△)	△ 1,490	△ 2,818	△ 1,076
配当金の支払額	△ 1,263	△ 1,405	△ 1,418
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,754	△ 4,224	△ 2,495
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額(差損:△)	—	△ 5	—
V 現金及び現金同等物の増減額(減少:△)	△ 3,826	△ 2,096	2,243
VI 現金及び現金同等物の期首残高	21,167	23,411	21,167
VII 現金及び現金同等物の期末残高	17,341	21,314	23,411

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てております。

(4) セグメント情報

〔事業の種類別セグメント情報〕

前年同四半期(平成19年3月期第3四半期)

(単位:百万円)

	化粧品 関連事業	栄養補助食品 関連事業	その他 事業	計	消去又 は全社	連結
売上高	33,618	23,157	17,448	74,223	—	74,223
営業費用	28,739	20,335	18,132	67,207	1,266	68,474
営業利益又は 営業損失(△)	4,879	2,821	△684	7,016	(1,266)	5,749

当四半期(平成20年3月期第3四半期)

(単位:百万円)

	化粧品 関連事業	栄養補助食品 関連事業	その他 事業	計	消去又 は全社	連結
売上高	37,003	22,938	15,615	75,556	—	75,556
営業費用	31,171	20,166	16,617	67,954	1,569	69,523
営業利益又は 営業損失(△)	5,832	2,772	△1,001	7,602	(1,569)	6,033

(参考) 前期(平成19年3月期)

(単位:百万円)

	化粧品 関連事業	栄養補助食品 関連事業	その他 事業	計	消去又 は全社	連結
売上高	46,376	31,665	23,023	101,065	—	101,065
営業費用	39,242	27,763	23,921	90,926	1,768	92,695
営業利益又は 営業損失(△)	7,133	3,902	△897	10,138	(1,768)	8,370

(注) 前連結会計年度末において、ポイントサービス利用に伴う売上値引に対応する費用にかかる会計処理方法を、ポイント使用時に売上高から控除する方式から、発生時に販売費及び一般管理費として費用計上する方式に変更しております。前年同四半期において変更後の方法によった場合の各セグメントの増減額は以下のとおりであります。

(単位:百万円)

	化粧品 関連事業	栄養補助食品 関連事業	その他 事業	計
売上高	+1,570	+1,082	+480	+3,133
営業費用	+1,514	+1,042	+462	+3,018
営業利益又は営業損失	+56	+40	+18	+115

◆ セグメント別の状況

1) 化粧品関連事業

売上高

化粧品関連事業の売上高は、37,003百万円（前年同期比10.1%増（※5.2%増））となりました。

	平成19年3月期 第3四半期		平成20年3月期 第3四半期		伸び率 (%)
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	
ファンケル化粧品	25,617 (27,187)	76.2 (77.3)	28,887	78.1	12.8 (6.3)
アテニア化粧品	7,734	23.0 (22.0)	7,829	21.1	1.2
その他	267	0.8 (0.7)	286	0.8	7.4
合計	33,618 (35,188)	100.0	37,003	100.0	10.1 (5.2)

	平成19年3月期 第3四半期		平成20年3月期 第3四半期		伸び率 (%)
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	
通信販売	18,798 (19,628)	55.9 (55.8)	19,644	53.1	4.5 (0.1)
店舗販売	11,660 (12,399)	34.7 (35.2)	13,345	36.1	14.5 (7.6)
卸販売等	3,160	9.4 (9.0)	4,013	10.8	27.0
合計	33,618 (35,188)	100.0	37,003	100.0	10.1 (5.2)

(注) 金額欄及び構成比欄下段の()書きの数値は、当第3四半期と同じ会計基準を採用した場合の数値です。

伸び率欄下段の()書きの数値は、当第3四半期と同じ会計基準を採用した場合の前第3四半期の売上高と当第3四半期の売上高を比較して算出した数値です。

ファンケル化粧品は、基礎化粧品や美白関連製品がリニューアル効果により好調に推移したことに加え、マイルドクレンジングオイルなど定番製品も堅調で、28,887百万円（前年同期比12.8%増（※6.3%増））となりました。

アテニア化粧品は、前期にリニューアルを行った基礎化粧品が堅調に推移し、7,829百万円（前年同期比1.2%増）となりました。

販売チャネル別では、通信販売は19,644百万円（前年同期比4.5%増（※0.1%増））、店舗販売は既存店が好調で13,345百万円（前年同期比14.5%増（※7.6%増））、卸販売他チャネルは海外向けが好調で4,013百万円（前年同期比27.0%増）となりました。

営業損益

損益面では、基礎化粧品のリニューアルなどにより原価率が改善したことおよび販売促進費の効率化を図ったことにより、営業利益は5,832百万円（前年同期比19.5%増（※18.2%増））、営業利益率は前年同期に比べ1.3ポイント上昇（※1.8ポイント上昇）し15.8%となりました。

2) 栄養補助食品関連事業

売上高

栄養補助食品関連事業の売上高は、22,938百万円(前年同期比0.9%減(※5.4%減))となりました。

	平成19年3月期 第3四半期		平成20年3月期 第3四半期		伸び率 (%)
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	
通信販売	10,673 (11,355)	46.1 (46.8)	10,293	44.9	△3.6 (△9.3)
店舗販売	6,158 (6,559)	26.6 (27.1)	6,564	28.6	6.6 (0.1)
卸販売等	6,324	27.3 (26.1)	6,080	26.5	△3.9
合計	23,157 (24,239)	100.0	22,938	100.0	△0.9 (△5.4)

(注) 金額欄及び構成比欄下段の()書きの数値は、当第3四半期と同じ会計基準を採用した場合の数値です。

伸び率欄下段の()書きの数値は、当第3四半期と同じ会計基準を採用した場合の前第3四半期の売上高と当第3四半期の売上高を比較して算出した数値です。

製品面では、HTCコラーゲンなどビューティサプリメントは好調でしたが、コエンザイムQ₁₀の売上減少が続き、ハーブ製品や行政指導に従って名称変更を行ったサポートシリーズの売上も低迷しました。

販売チャネル別では、店舗販売は既存店が堅調で6,564百万円(前年同期比6.6%増(※0.1%増))となりましたが、通信販売は10,293百万円(前年同期比3.6%減(※9.3%減))、卸販売他チャネルは海外向けは好調だったものの国内向け卸が低迷し6,080百万円(前年同期比3.9%減)となりました。

営業損益

損益面では、販売促進費等経費の効率化を図りましたが、減収による利益減をカバーできず、営業利益は2,772百万円(前年同期比1.8%減(※3.1%減))、営業利益率は0.1ポイント低下(※0.3ポイント上昇)し12.1%となりました。

3) その他事業

売上高

その他事業の売上高は15,615百万円(前年同期比10.5%減(※12.9%減))となりました。

	平成19年3月期 第3四半期	平成20年3月期 第3四半期	伸び率 (%)
	金額 (百万円)	金額 (百万円)	
発芽米事業	3,724 (3,889)	2,840	△23.7 (△27.0)
青汁事業	2,910 (3,052)	2,880	△1.0 (△5.7)
いいもの王国通販事業	7,667	6,847	△10.7
その他の事業	3,146 (3,318)	3,047	△3.2 (△8.2)
合計	17,448 (17,928)	15,615	△10.5 (△12.9)

(注) 金額欄及び構成比欄下段の()書きの数値は、当第3四半期と同じ会計基準を採用した場合の数値です。
 伸び率欄下段の()書きの数値は、当第3四半期と同じ会計基準を採用した場合の前第3四半期の売上高と当第3四半期の売上高を比較して算出した数値です。

発芽米事業は、4月より20%の値下げをしましたが、販売量の拡大にはつながらず、すべての販売チャンネルで前年同期を下回り、売上高は2,840百万円(前年同期比23.7%減(※27.0%減))となりました。

青汁事業は、通信販売は好調に推移しましたが、卸販売が伸びず、売上高は2,880百万円(前年同期比1.0%減(※5.7%減))となりました。

いいもの王国通販事業は、前期は好調だったウォーキングシューズや健康機器などの売上が減少し、6,847百万円(前年同期比10.7%減)となりました。

その他の事業は、雑貨・肌着の売上が伸びを欠き、3,047百万円(前年同期比3.2%減(※8.2%減))となりました。

営業損益

損益面では、広告宣伝費の抑制などにより青汁事業の損益は改善したものの、発芽米事業やいいもの王国の損益が悪化したことにより、営業損失は1,001百万円となり、前年同期に比べ317百万円(※335百万円)悪化しました。

【ご参考：業態別店舗数】

	平成19年12月末	前期末比
ファンケル銀座スクエア	1	—
ファンケルハウス	106	△1
ファンケルハウスJ	87	△1
元気ステーション	8	—
アテニアショップ	10	—
その他	4	—
合計	216	△2

《ご参考》

(要約) 四半期個別貸借対照表

(単位: 百万円、%)

科 目	前年同四半期末 (平成19年3月期 第3四半期末)	当四半期末 (平成20年3月期 第3四半期末)	増 減		(参考) 前期末 (平成19年3月期末)
	金 額	金 額	金 額	増減率	金 額
(資産の部)					
I 流動資産					
現金及び預金	9,955	8,263	△ 1,692	△ 17.0	7,594
受取手形及び売掛金	8,463	8,992	528	6.2	7,605
有価証券	3,993	5,497	1,503	37.6	12,293
たな卸資産	2,754	3,021	267	9.7	2,808
その他	2,399	2,609	209	8.7	2,502
流動資産合計	27,566	28,384	817	3.0	32,804
II 固定資産					
1. 有形固定資産					
建物及び構築物	6,372	5,847	△ 524	△ 8.2	6,208
土地	7,176	7,167	△ 9	△ 0.1	7,167
その他	1,008	808	△ 200	△ 19.8	922
有形固定資産合計	14,557	13,823	△ 734	△ 5.0	14,298
2. 無形固定資産	2,400	2,818	417	17.4	2,622
3. 投資その他の資産					
投資有価証券	1,087	852	△ 234	△ 21.6	284
長期貸付金	6,039	6,200	160	2.7	6,238
保証金	2,470	2,392	△ 78	△ 3.2	2,438
その他	14,222	12,230	△ 1,992	△ 14.0	10,912
投資その他の資産合計	23,819	21,675	△ 2,144	△ 9.0	19,873
固定資産合計	40,778	38,317	△ 2,461	△ 6.0	36,794
資産合計	68,345	66,701	△ 1,644	△ 2.4	69,599
(負債の部)					
I 流動負債					
買掛金	2,832	2,611	△ 220	△ 7.8	2,672
未払金	2,790	2,443	△ 347	△ 12.5	2,369
未払法人税等	757	514	△ 242	△ 32.1	1,776
ポイント引当金	—	1,558	1,558	—	1,849
その他	1,647	1,925	277	16.9	1,513
流動負債合計	8,028	9,052	1,024	12.8	10,180
II 固定負債					
退職給付引当金	910	991	81	8.9	906
役員退職慰労引当金	189	—	△ 189	△ 100.0	189
その他	69	246	177	257.0	105
固定負債合計	1,169	1,238	69	5.9	1,201
負債合計	9,197	10,291	1,093	11.9	11,381
(純資産の部)					
I 株主資本					
資本金	10,795	10,795	—	—	10,795
資本剰余金	11,857	11,867	10	0.1	11,852
利益剰余金	44,441	43,935	△ 506	△ 1.1	43,103
自己株式	△ 8,125	△ 10,506	△ 2,380	29.3	△ 7,699
株主資本合計	58,967	56,091	△ 2,876	△ 4.9	58,050
II 評価・換算差額等	56	42	△ 14	△ 25.9	54
III 新株予約権	123	276	152	123.8	111
純資産合計	59,148	56,410	△ 2,737	△ 4.6	58,217
負債・純資産合計	68,345	66,701	△ 1,644	△ 2.4	69,599

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てております。

(要約) 四半期個別損益計算書

(単位:百万円、%)

科 目	前年同四半期 (平成19年3月期 第3四半期末)	当四半期 (平成20年3月期 第3四半期末)	増 減		(参考) 前期 (平成19年3月期)
	金 額	金 額	金 額	増減率	金 額
I 売上高	55,725	57,417	1,692	3.0	76,574
II 売上原価	20,106	19,314	△ 792	△ 3.9	26,042
売上総利益	35,618	38,103	2,484	7.0	50,532
III 販売費及び一般管理費	32,145	34,437	2,291	7.1	45,355
営業利益	3,472	3,665	192	5.5	5,177
IV 営業外収益	967	981	14	1.5	1,253
受取利息及び配当金	160	183	22	14.1	210
その他営業外収益	806	798	△ 8	△ 1.0	1,043
V 営業外費用	236	264	27	11.7	517
たな卸資産廃棄損	163	197	33	20.7	304
その他営業外費用	73	66	△ 6	△ 8.4	212
経常利益	4,203	4,382	179	4.3	5,914
VI 特別利益	—	6	6	—	636
VII 特別損失	256	16	△ 240	△ 93.7	3,453
税引前四半期 (当期) 純利益	3,947	4,372	425	10.8	3,097
税金費用	1,463	2,002	538	36.8	1,952
四半期(当期) 純利益	2,483	2,370	△ 112	△ 4.5	1,144

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てております。